

生物多様性情報クリアリングハウスメカニズムで用いるメタデータ標準について

クリアリングハウスメカニズムで国際的に使用されている標準は、ISO23950「情報検索サービスとプロトコルに関する標準」である。ISO23950 のなかでは、メタデータに関する仕様（標準）と検索用の通信プロトコルが規定されている。

これまでに米国・連邦地理情報委員会(FGDC)による空間情報 CHM や、米国議会図書館(Library of Congress)の書誌データベース検索システムがこのISO23950に準拠したメタデータ標準に基づいた情報検索システムを構築している。また、日本の国土地理院はISO、FGDC(CSDGM)に準拠し、日本での利用を考慮したメタデータ標準(地理情報標準第一版)を策定している。

生物分野では、生物多様性条約事務局、世界生物多様性情報機構(GBIF)、Catalog of life(旧 Species2000)、BCISなどが策定を進めおり(調整中)、現在利用できるものとしては、前述の米国・連邦地理情報委員会(FGDC)の生物分野ワーキンググループ(USGS Biological Resources Division 監修)が策定した Biological Data Profile がある。

このメタデータは、米国政府、民間、国際機関等 100 を越える機関が参加している空間情報 CHM のメタデータ標準(CSDGM)に生物に関わる項目を追加したものであり、生物資源や生物学(遺伝学、微生物学、生態学など)の情報を扱うことができる。

前出のメタデータの特徴をまとめると以下ようになる。

特徴	該当するメタデータ
・国際標準に準拠している	…ISO、FGDC-CSDGM、地理情報標準第一版
・生物分野の情報を扱える	…FGDC-CSDGM-Biological Data Profile
・日本国内での利用に合わせている	…地理情報標準第一版

生物多様性情報 CHM が採用すべきメタデータは、この3つの特徴を備えていることが望ましい。そこで、生物多様性情報標準(仮称)(メタデータ)は、FGDC-CSDGM-Biological DataProfile と地理情報標準第一版をベースとし、この中から必要な項目を選択し、また、必要に応じて新規項目を追加したものとしたい。